



学校法人永原学園

さんこう
児童クラブ通信

令和6年11月発行
— 第8号 —

【三光幼稚園】

TEL : 0952-31-0753

【さんこう児童クラブ携帯】

TEL : 090-7430-1312



心も体も成長途上

久しぶりに訪れた児童クラブの子ども達は、どの子も体つきの変化が見て取れました。身長も手足の長さも太さも幼児期とは大違い！3年生にして小柄の私は追い抜かれそうです（^^）。また、言動や反応も個々違いがみえて、指導員の仲介がないと本心を返してくれません。児童の心理も複雑な様です。そんな成長途上の子ども達は、児童クラブで好きな遊びを満喫している時間は笑顔が溢れ、友達との関係も良好です。

児童クラブ開設3年目にして、初めて体験する事案も出てきましたが、指導員には心をひらいて話してくれる様日頃の関り方に配慮していきたいと思います。

保護者の皆様にも、何かありましたらお知らせ頂くと助かります。

写真に見る最近の子ども達は、運動会後の競争心や体力全開の心地よさを楽しんでいます。大学の広いグラウンドのおかげですね。気温も下がり当分は過ごしやすい時期になりました。室内の制作と外遊びと、宿題をこなしながら、晩秋のひと時を楽しみたいと思います。

福元芳子先生

11月の目標

「基本的な生活習慣を見直して行動しよう！」
くつを並べることや、戸外から帰ってきたら手を洗うこと等、職員も子どもも自分の行動を見つめ直したいです。

「めんどくさい。」という言葉がよく聞かれるので、やるべきことはするよう、徹底して声掛けをしていきたいと思います。

【相手の思いを考えた言葉や行動をしよう】

言葉や行動について、再度子どもたちと一緒に見直しています。言葉遣いや友達にされて嫌な事を挙げながら、みんなで考え話し合い、意識して行動できるように職員自らも気を付けていけたらと思っています。気がなった時、思いの行き違いになった時等、仲立ちをしながら子どもの思いに寄り添って関わっていきたいです。

【友達とバトンを繋いで♪】

運動会で、リレーの代表をしたり、興味をもったりした子ども達がどんどん増えてきました！メンバーが集まると、何チームにするのかから相談が始まります。仲立ちをする中で、子どもたち自身で話し合いや多数決によってルールが決まります。走順では、作戦を立てながらチームが早く走れそうな順番を組んで、勝利を目指します(^o^)



I先生に作ってもらったバトン！
色は、赤、黄、青の3色。
神野小学校運動会の団色です♪
子どもたちは大喜び(*^▽^*)
毎日がブームの外遊びになりました！！
バトンを木の棒にするという、
自然を活かせるのもいいけれど、
やっぱり、本物の方がいいみたいです(笑)



頑張れー！！

どんどん走って、
丈夫な体をつくってね!(^^)!

11月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	10月末退所者数
1年生	5	1	4	0	0
2年生	13	0	13	1	0
3年生	12	1	11	0	0
計	30	2	28	1	0

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

「なぜおもちゃの引っ張りあいが子どもの集中を高めるのか。作業療法士の視点」

西九州大学リハビリテーション学科作業療法学専攻・専攻主任・小松洋平

作業療法士がどのように子どもたちの成長をサポートできるかについて、お伝えします。作業療法士は、対象者が「やりたい」と思う活動や「やらなければならない」と感じる生活行為が出来るように、心と体の両面からアプローチして支援します。また、環境を整え、対象者の好きな活動を活かしながら、心身の改善を図ることが得意です。

作業療法士の対象は、子どもからお年寄りまで幅広く、最近では保育園や小学校での活躍も増えていきます。岐阜県のある小学校では、学校内に作業療法室が設置され、注目を集めました。このような取り組みが進んでいる背景には、子どもたちの発達を支えるために作業療法が重要な役割を果たしているからだと思います。

先日、私は放課後デイサービスを訪れた際、職員の方から「子どもたちの集中力を高める遊びはありますか？」と相談を受けました。その際に、新聞紙で作った棒を使った引っ張り合い遊びを提案しました。この遊びは、子どもたちの「固有感覚」を刺激し、集中力を高める効果があります。

固有感覚とは、身体がどのように動いているかを感じる力です。棒を引っ張り合うことで、関節が「引っ張られた」と感じ、その情報が脳に伝わります。これにより、各関節の位置が脳に入力され、「自分の体がここにある」という感覚が強まります。これが集中力の向上に繋がるのです。

固有感覚が集中力を高める理由は、体の位置や動きをしっかりと感じ取ることで、周りの状況にうまく対応できるようになるからです。例えば、体がどこにあるのかやどう動いているのかが分かると、目の前の遊びや課題に集中しやすくなります。これにより、子どもたちは遊びや学びに夢中になり、その結果、集中力が自然と高まっていきます。

このようなシンプルな遊びでも、子どもたちの発達を促進する効果があります。ぜひ、放課後や家庭で実践してみてください。ただし、遊びがエスカレートしてけんかにならないよう、適切に見守りながら行うことをお勧めします。

